

## 第二種特定鳥獣管理計画（2022年度～）（案）に対する委員等からの意見と対応について

※下線部は環境審議会自然環境保全部会の委員

番号	計画	該当項目・ページ	意見の概要	対応	県の対応
1	4獣共通	計画の背景 (p.1)	「生息状況は直接観察できないことから」という表現があるが、ニホンザルは群れの状況を直接観察することができる。獣に応じて書き方を変えた方がよい。(渡邊委員)	修正	「生息数や分布等（サルの場合は「群れの分布等」と記載）の生息動向は常に変化し、また、それらを把握するための調査結果には誤差が含まれている。そのため～」と修正しました。
2	4獣共通	計画の背景 (p.2表1)	目標頭数に対する平均捕獲実績を併記した方がわかりやすい。(常田委員)	追記	目標捕獲頭数に平均捕獲実績を併記しました。
3	4獣共通	(計画全体)	捕獲者の減少に関しては、何らかの転換をして新しい担い手を入れないと、捕獲は先細りになるだけだと思う。それがわかっているなら、どうやって解決するか最大限の努力をすべき。(常田委員)	修正なし	捕獲者の確保に関しては、計画に位置づけるだけでなく、狩猟団体とも調整しながら、実施する施策の検討を進めていきます。
4	4獣共通	(計画全体)	4獣の分布拡大に伴い、ヤマビルやダニによる健康被害も増えてきているので、計画にも記載されたい。(渡邊部会長)	追記 シカ p.10,28,36 イノシシ p.10,24,31 サル p.10,25,31 カモシカ p.11,22,28	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害状況 「その他の被害」を追加し、ヤマビルやマダニによる被害、市街地出沒に伴う生活環境被害等について、国のガイドラインを踏まえる形で追記しました。</li> <li>モニタリング等の調査研究 「また、表に示す項目以外についても、市街地出沒による生活環境被害等、ニホンジカによる被害は多岐に渡ることから、その情報の把握に努めることとする。」の一文を追加しました。</li> <li>感染症及び安全対策の実施 「ア 感染症への対応等」と「イ 安全対策に関する配慮」に分けて、その部分にもヤマビル、マダニ等の被害や狩猟事故等、捕獲実施時における注意事項に係る内容を追記しました。</li> </ul>
5	4獣共通	人材育成、捕獲技術の開発 シカp.24,イノシシp.21,サルp.22	捕獲者の担い手の確保について、「新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては、オンライン開催に切り替える等、開催方法について検討する」とあるが、新型コロナに限定する必要はない。「社会情勢によっては、オンライン開催に切り替える等～」などとしたほうが良い。(森部専門委員)	修正	「社会情勢の変化に応じて、オンライン開催に切り替える等、開催方法について検討する」と修正しました。
6	4獣共通	市街地出沒の防止等に係る対応について シカp.33 イノシシp.29 サルp.30 カモシカp.27	市街地出沒の防止に係る部分について、「出沒した時の対応について検討する必要がある」は弱いと思う。今後市街地出沒は増加すると思われるので、もう少し踏み込んだ書き方をしてほしい。(森部専門委員)	修正	「出沒を防止するための対策を実施するとともに、出沒時に備えた体制の整備を行う。」と修正しました。

## 第二種特定鳥獣管理計画（2022年度～）（案）に対する委員等からの意見と対応について

※下線部は環境審議会自然環境保全部会の委員

番号	計画	該当項目・ページ	意見の概要	対応	県の対応
7	4獣共通	(計画全体)	<p>捕獲対策として、地域駆除員によるわなを主体とした捕獲活動を行っているが、駆除員の高齢化、新人駆除員との狭間で、捕獲の向上に繋がっておらず、安全面でもとても不安である。</p> <p>ベテランのわな猟師による指導制度を設け、捕獲技術の向上の取組をしてはどうか。(猟友会豊田支部)</p>	修正なし	愛知県では、狩猟免許所持者数が増加しても、実際の捕獲に繋がらないことが課題だと感じています。現在は捕獲技術向上のための取組として、年1回の「わな捕獲技術向上セミナー」を開催していますが、引き続き狩猟団体とも協力しながら、より効果的な取組を実施できるよう、事業の内容を検討します。
8	シカ	(計画全体)	<p>生息数が減少していないことを踏まえ、減らさないといけない旨を明確に記載したほうが良い。現行計画では、最初の頃は捕獲目標を達成できず、その結果として、生息数が増えてしまった、という分析を掲載し、早い時期に減少させる必要がある旨を率直に記載してはどうか。早い時期に多く捕獲し、生息数を減らすのが重要である。(常田委員)</p>	記載済み、修正	<p>・記載済み(p.15) 現行計画の評価は、p15の「特定計画の評価と改善」の項目内で「2019年度及び2020年度は捕獲目標である5,000頭を達成したが、それ以前は達成できていなかったこともあり、長期的には生息数は増加傾向にある」「生息数の減少及び生息密度低減のため、従来よりも高い捕獲圧をかけ続けるとともに、実施する施策の内容を検討する必要がある」としています。</p> <p>・修正(p.22) 「数の調整に関する事項 イ捕獲目標」の項目内に、「本計画で目標とする生息数は10,000頭であるが、高い捕獲圧をかけ、生息数を早期に減少させる必要がある」と追記しました。</p>
9	シカ	(計画全体)	<p>牧場での出沒も問題だと思うので、常時監視し、牧場の管理者と連携する形で捕獲を確保できないか。(織田座長)</p>	修正なし	茶臼山付近の牧場や周辺では、今年度も指定管理鳥獣捕獲等事業を実施しており、来年度以降も実施場所や体制について関係者と調整し、シカの捕獲数の増加を図っていきます。
10	シカ	(計画全体)	<p>メスジカをできるだけ捕獲することが重要で、雌雄の捕獲比率のデータを示すべき。(常田委員)</p>	修正なし	雌雄の捕獲割合については、資料編(資p.21)に記載しています。
11	シカ	管理の目標(p.17)	<p>生息密度の管理目標(5頭/km<sup>2</sup>以上のメッシュ数を3割減)について、基準年度がわからない。(森部専門委員)</p>	追記	2020年度比で3割減少させる旨を表及び本文に追記しました。
12	シカ	数の調整に関する事項(p.22)	<p>「6,000頭」という数値を記載すると、捕獲を6,000頭までに抑えないといけないというバイアスが働くのではないかと。捕獲数を確保するため、上限は設けない形での記載が良いのではないかと。(渡邊委員)</p>	修正	「6,000頭以上を目安に捕獲」については、「年度あたり6,000頭以上の捕獲を目指す」と修正しました。

## 第二種特定鳥獣管理計画（2022年度～）（案）に対する委員等からの意見と対応について

※下線部は環境審議会自然環境保全部会の委員

番号	計画	該当項目・ページ	意見の概要	対応	県の対応
13	サル	(計画全体)	サルの管理に関しては、若い専門的な人材を育てて対策に参加させ、取組を軌道に乗せる必要がある。(渡邊委員)	修正なし	サルは、群れ単位での管理を目指すため、計画の内容を見直しております。計画の内容は、連絡協議会等の場を利用して県の農政部局や市町村と共有し、地域ぐるみの対策の実施に繋げていきたいと考えております。
14	サル	生息状況(p.5図3)	西尾市は「撤退」した地域なのに、「個体数が増加」というのは矛盾している。(渡邊委員)	修正	聞き取り調査の結果を確認したところ、上側の「撤退」が正しく、下側の「増加」の情報が誤っていたので、図を修正しました。
15	サル	生息状況(p.6)	サルの群れは、疎らに点状に分布するようなことはない。「42群れ程度が生息」とあるが、「42群れが確認されている」や「少なくとも42群れの生息が確認されている」というべき。(渡邊委員)	修正、 追記	「42群れ程度の群れの生息が推定されている」を「少なくとも42群れの分布が確認されている」と修正しました。  また、「なお、サルの群れは原則隣接して分布するため、現在群れが確認されている地域以外にも群れが分布している可能性が高い。」という文を追記しました。
16	サル	群れの加害状況(p.8)	「豊橋市、蒲郡市に群れが分布していない」という部分があるが、把握できていない可能性もあるので、書き方は変えた方がよい。(渡邊委員)	修正	「豊橋市及び蒲郡市では、アンケート調査等では群れの分布は確認されず、農業被害も報告されていないが、隣接する岡崎市及び豊川市に分布する群れは比較的加害レベルが高いと予想されるため、注意が必要である」と修正しました。
17	サル	群れの加害レベル(p.10図8)	「真福寺A群」「真福寺B群」が一つの枠に描かれているが、同じ群れなのか、この範囲に2つの群れがいるのか。注釈を入れないと誤解を招くのではないか。(渡邊委員)	追記、 修正	真福寺A群、真福寺B群に関しては、もともとは真福寺群という大きな群れだったのが、群れが大きくなりすぎたため、2群れに分裂したものです。岡崎市によると、群れが分裂したのは確かではあるが、それぞれの群れの行動域は調査中で、分布を正確には掴めていない状況にあるとのことです。注釈でその旨がわかる形に修正しました。
18	サル	(参考様式) ニホンサル加害レベル調査票(p.19)	アンケート調査票には、出没時間を追加したほうがよい。同一時間に違う場所で出没していれば違う群れであることがわかる。(渡邊委員)	修正	目撃日時の項目を新設するとともに、「サルの群れを目撃した日時・場所・状況について、できるだけ詳しくご回答ください。」という設問を追加しました。  また、加害レベルに係る質問について、住民が回答しやすいよう、別添の加害レベル判定表を参考に数字を記入する形式ではなく、選択肢を用意し、そこから近いものを選択する形式に修正しました。

第二種特定鳥獣管理計画（2022年度～）（案）に対する委員等からの意見と対応について

資料 2 - 2

※下線部は環境審議会自然環境保全部会の委員

番号	計画	該当項目・ページ	意見の概要	対応	県の対応
19	サル	数の調整に関する事項(p.20)	レベル5の群れを「連続」か「孤立」によって捕獲方法を変える旨の図があるが、分ける必要はあるのか。また、レベル5なら群れ捕獲が良いと思う。(渡邊委員)	追記	該当の図は、環境省のガイドラインの抜粋である旨明記するとともに、p21「群れ捕獲 ①対象」には、「加害レベルが5の群れについては、群れサイズやその連続性に関わらず、群れ捕獲の実施を検討する」と追記しました。
20	サル	数の調整に関する事項(p.20)	「新たな地域への進出群については、しかるべき早い時期に分布の拡大を抑えるために除去する」という内容があったほうが良い。(渡邊委員)	追記	「なお、新たな地域への進出群については、しかるべき早い時期に分布の拡大を抑えるために除去を検討する。」と追記しました。
21	サル	数の調整に関する事項(p.22)	選択的捕獲は、必ずしも捕獲檻で行えないわけではない。特に非常に人馴れたサルなどには有効である。(渡邊委員)	追記	選択捕獲の③手法について、「なお、人馴れが非常に進んでいる個体に対しては、捕獲檻の使用も有効である。」という文を追記しました。
22	サル	加害レベルの判定(p.17)	ニホンザルの群れの分布調査について、ニホンザルは、市町村境を越えて行動しているため、広域的な調査が必要と考える。そのため、県が平成20年度から22年度に実施したテレメリー調査を今回の計画に位置付け、愛知県が事業主体となって市町村と協力して5か年で調査を実施するようしていただきたい。 ※市町村は、調査データを基に加害レベルの判定を行う体制が良いと考える。  「県は、市町村が調査した群れを分析し～」という部分は、市町村には調査はできないと思うので、表現を改めてほしい。(豊田市農業振興課)	修正	環境省のガイドラインでは、テレメリー調査の実施は、各群れの分布状況や、加害レベルがある程度把握できた段階で、管理を強化するために各群れの詳細な行動域や、群れを構成する頭数等の把握のため、行うものとされています。  今後5年間では、被害の状況により優先度をつけつつ、市町村と協力しながら、群れの分布状況及び加害レベルの把握を目指します。  「県は、市町村が調査した群れの状況を分析し、全県での管理方針を検討する」の部分は、「県は、市町村が把握した群れの状況を分析し～」と修正しました。